

46年間 海に情熱を賭けたチャレンジャーの 堀江謙一さんを迎え

「植村直己冒険賞」特別賞授賞式・記念講演会 「未知への航海」



▲ボーン岬東回り単独無寄港世界一周に挑戦する堀江さん(2004年)



▲中貝市長から盾を受け取り、記念撮影に応じる堀江さん

6月6日、日高文化体育館に2008「植村直己冒険賞」特別賞受賞者の堀江謙一さん(70歳・芦屋市在住)を迎え、13回目となる授賞式を開催しました。

「植村直己冒険賞」の特別賞は、2003年の明治大学山岳部^{ろばたかい}炉辺会に続き2例目となります。

堀江さんは、1962年、世界で初めてヨットによる単独太平洋横断を成功させてからヨットで単独無寄港世界一周、ソーラーボートや足漕ぎ(人力)ボートなどで外洋航海を成し遂げました。また、2008年には世界初の波の力で進む波浪推進船で太平洋単独横断を達成し、海を舞台にした冒険を常にリードしています。

当日は、選考委員の石毛直道さんの選考評に引き続き、中貝市長から盾の贈呈を受けた堀江さんは「初の太平洋横断でいただいた賞は最年少でしたが、植村さんの賞は最年長の受賞となりました。これからの一層の励みにしたいです」と受賞の喜びを話しました。

また、「未知への航海」と題した記念講演会も行われ、約800人の観衆を前に、1962年の世界初ヨット単独太平洋横断でのエピソードなどを交えながらこれまでの冒険の話をしました。

《問合せ》植村直己冒険館 ☎44-1515

1938年、大阪市に生まれ、関西大学第一高等学校のヨット部に入ったのがきっかけです。できるだけ高い目標を達成したいという思いが、冒険への原点になりました。

1962年、世界で初めてヨットで西宮からサンフランシスコまで、単独太平洋横断に成功したときは、

■ヨットで単独太平洋横断



▲記念講演会で冒険を振り返る堀江さん

「未知への航海」

講演要旨



▲オープニングでは、府中小学校3年生の児童が植村直己をテーマに『あなたと私「U&I」』と題し、歌などを披露

夜の出発となり、風がなく、港を出るまでに約1時間30分かかり、最悪の船出となりました。

最初の1週間は船酔いで苦しみましたが、その後は酔わなくなりました。次の悩みは、海水がヨットのの中に入ってきたことで、くみ出しに苦勞しながら航海しました。原因は構造ではなく、少ない予算でやりくりした材料だったと思います。

海原では、クジラの群れに出合い、しつぽに当たるとヨットが壊れてしまうので大変心配でした。

太平洋の真ん中の国際日付変更線に到達。地図ではしっかり線が書いてあるのに、海の上では何のしるしもありませんでした。

ヨットの上では、ひたすら本を読んでいた。新聞がなく、地上では、毎朝、新聞配達があることは大変ありがたいことだと感じました。

ある日、ヨットの上空を、小さなジェット機が何回も様子を見にやってきました。助けられることを一番恐れていた私は、手を振ると遭難していると思われるので、遭難者なら写真は撮らないだろうと思い、近づくと度々写真を撮り、遭難者ではないことをアピールしました。

出発してから約80%の行程を過ぎたところ、アメリカの黒い貨客船が近づいてきました。初めて英語で会話



▲世界初の単独太平洋横断 (1962年)

し、自分が日本人であることや、ヨットで一人、太平洋を横断していることを説明しました。もともと英会話を勉強しておくべきでしたが、2カ月半ぶりの会話で、会話することは素晴らしいと実感しました。

サンフランシスコが見えてくると、国際法に基づき、黄色い旗を掲げて、「検疫してください」と、意思表示して湾に入りました。

パスポートはなかったのですが、サンフランシスコの移民局の検疫は「この船はネズミはいないのか」と聞かれただけで完了しました。

その後、1カ月間、日本総領事館で世話になり、サンフランシスコ市からは、サンフランシスコ名誉市民の称号を受けました。

新聞に「23歳の青年が19フィートのヨットで94日間かけ日本から渡つて来た。着いたときには3つのもの（パスポート、英会話、お金）を持っていなかった」と紹介されたた

め、散髪に行くただでしていただいた上に5ドルの小遣いまでくれました。また、航空会社から声がかかり、日本の航空会社の飛行機で帰れることになりました。サンフランシスコの皆さんに大変お世話になったお礼として、ヨットを市に寄贈したところ、サンフランシスコの海洋博物館で永久展示をしていただくことになりました。

■単独無寄港世界一周

1974年、小型ヨットで大阪を発着点に西回り単独無寄港世界一周に成功したときのことです。

ハワイの南、1千キロメートルの所では、帆を引っ張り上げるマストの上の滑車に通じているロープが切れ、10メートルの高さのマストに上がりました。あと1メートルという所で大きな波が来て、振り落とされました。船の上に落ちる覚悟でしたが運よく海に落ちたため助かりました。このときマストに登らなくても滑車にロープを通す方法を思い付きました。

■縦回り世界一周

1982年、世界で初めてヨットで和歌山からハワイまで、縦回り世界一周に成功したときのことです。北極海は、冬の間、氷が張ってしまい、砕氷ができない船は前進することができませんでした。夏の間

の氷が割れるときを待ったため、グリーンランドからベイリング海峡を通過するのに4回冬を過ごしました。その後、マストを折るアクシデントを受け、さらにハワイへ向かう途中、嵐が来たため、小さな帆を外し、キャビンの中で嵐が過ぎるのを待っていました。突然大きな波が来て5トンあるヨットが180度ひっくり返ってしまいました。

ヨットは、普通、すぐに元に戻る仕組みになっていますが、ひっくり返った状態で安定し、空気が抜けて、下から海水が入ってきました。空気の通り道は、唯一炊事場の水を流す管からでした。しばらくして、大きな波が来て、元に戻りました。もう少しで沈んでいたと思います。この経験で、その後のヨットは不沈構造を取るようになりました。



▲マストが折れたヨット (1982年)

■これから

現状に満足することなく、より高い目標に向かって、今後も頑張っていきたいと思っています。